

---

君。。。\*

ゆづゆ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君。。。\*

### 【著者名】

ゆづゆ

### 【あらすじ】

ゆづゆと嶺は中学の入学式の口に隣の席に座りながら恋に落ちていく。。。そして2人の結末は。。。\*

あなたは覚えていりますか?  
隣の席だった頃の事を…！

…中学生…

春から私は中学生になる！

待ちに待つた・・・入学式の日私は不安と緊張とワクワクする気持ちが私の中に舞い上がった。

『どんな子がいるのだろう?』『友達は出来るかな  
私はゆっくりとクラス名簿を見た・・・

『えつと…私の名前はあ…あつーあつた・・・』

『石川ゆづゆ』

『1年5組かあ 楽しくなるといいなあ』は5組の教室へと足を運んだ

知らない人ばかりたりだった・・・

重い足取りで一步一歩、歩き自分の席へと着いた

着慣れない制服、見たことのない友達、私は戸惑いを隠せなかつた

『ゆづゆーーー!』

すらっとした美脚に整った綺麗な顔、そう私の大好きな友達【谷村  
美玲】だ！

「ああー美玲

『マジシーパーティーで遊び始めたのが一探したんだよー。』『もう一歩進んで遊び始めたのが一探したんだよー。』

どうやら私の事を探してくれていたらいい……

みれい！

この声の正体は… そう美玲の彼氏（笑）

『何イ？今ゆづゆとお取り込み中でーす

『美玲！ダだよ  
メほら行きなあ』

『ゴメンねえ』

そんなことをしていたら教室に担任の先生が入ってきた！

『じゃあまず隣の席の子と友達になりなあ～』  
そう先生は笑顔で言つ！

私の隣はあ、あ、あ、つてまだ来てないじやあん

そう思つていた瞬間ドアが開いた！

『ガラガラ』寝坊しましたあ！』

『次から寝坊すんなよ！席はあ石川さんの隣だッ  
初日そつそつ寝坊したコイツ！』小島嶺

肌が真っ白にきれでまるで女の子のようだった

マジッツツ！－！－！－！  
( ) !－！－！この人が私  
の隣・・・

私はこの時は思いもしてなかつたんツ  
この人が運命の相手だつたつてことを・・・

うわあ―― じりじょう (ノ ^。 )。 。  
緊張する。 でも隣だし話しかけなきゃ。 。 。

私は思い切つて！！  
話しかけたんだ・・・

そんな君は顔をりんごみたいに真っ赤に染めていた。

私はびっくりした。・  
ぽかーん( - ;)

この時だけが時間が止まつたよーな感覚だつた・・・

なにか胸が締め付けられるよーな変な感覚に襲われたんだ・・・

『いつの話を『一田惚れ』って言うのかなあ・・・？

私はこの時のことを今でもちゃんと覚えている『ゆづゆ

活何部に入る?』『部活があ?』

『私は吹奏楽部に入るつもり!』美玲はすぐ

『私はテニス部に入りたいなあ』

あいつは何部に入るんだり? 一緒にだつたらいいなあー!

私はいつしかあいつの事ばかり考えていた:

放課後……

『ああー……』私が見る先には《小島嶺》

あいつもテニス部だ!――

嬉しくて嬉しくて……  
たまらなかつた!!

でもこんな嬉しい事ばつかぢやあなかつた・・・

ある日いつものよーに美玲とおしゃべりで盛り上がっていた…

そこへケラスの女子の何人かが歩いてきたんだ。  
・

『あのねえ！あたし… 小島君の事が好きなの！みんなとらないでねえ…！』

そういうつて去つていつた！

えッ！――！――！――！――！

のの子と付き合つてるの?

小島！あの子の事好きなの？？

私は声をあげて泣いた。.

『あああ…田畠れぢやつたよお』(ノヽ^。^)。

それに小島は気付いてくれたよね！？

『田一 晴れてんぢやあん』

君はいつだって優しかったね…一ゆづゅ…ねー  
嬉しかったんだよ  
でも冷たい態度をとっちゃって『メン…』

静かな教室…に2人だけ

私の中の『ラップはあなたへの甘い気持ちで溢れていたんだッ

7

『気がついたら…

あなたへ言っていたんだ

『好き』『いつもじつなんてやいぢやらなかつたの』、

あんのじゅうあなたは困つたよーな『惑つたよーな顔をしていたね  
！・・

田があつた瞬間君は…

『ゴメン…』

ただそれだけを残して去つていった・・・

静か教室に一人・・・

なんか胸にすごい激痛がはしる…『言わなければよかつた』ものす  
ごい勢いで後悔の嵐が私へと降り注ぐ…

あんか胸の奥に穴がぽっかりあけたよーなそんな感じだった・・・

私の頬には大粒の雨が降った・・・

明日は何があつてもおどずれる…

またいつもと変わらない朝だけどまったく違う朝…

重い足取りで学校へ行つた

チャイムが鳴り響く！

なのに小島はこなかつた…

次の日も次の日も・・・

なんで？？

そつ思つと同時に私は走り出していたんだ

向かつた場所は小島の家だつた

そつ氣付いた瞬間チャイムを鳴らしていた！――

『はーい』でてきたのは小島の母だつた

あいつはお母さん似なのがなあ

とても綺麗で色白で優しい人だつた

『あのッ――領君は？』

・・・・・

『れッ領？今寝てると思つわあ――

』『んうですかあ――

なんかわざわざ真かあいてなかつた??あれは『氣のせい』??

なんかわざわざ感じたんだ・・・

すると.....!!

『わづわづやーん!』

小島のお母さんが走つてこひいて来る!!

『やつぱりなんかかくしてたんだ・・・!!

ほりねー...やつぱりなんかかくしてたんだ・・・!!

『嶺ー今病院なの!』

えツ??なんで??

『嶺は重い病気なの』

なんで?この前まで元気にしてたやあん?

ねえ?うそだつて言つて!

お願ひだから。。

私はそこで泣き崩れていた

嶺のお母さんは力いっぱい抱き締めてくれた\*。。。

私は嶺のところへ向かった

お天気キャスターの森田さんは今日は雨と言つていたのに雲一つな

い清々しい青空だった・・・

嶺の病室ー私はいつきに現実へと引き戻された...

おれるおれるドアを開けた...

久しぶりに見る嶺の姿があつた・・・

嬉しかつた...

『みびみびーーーー』

『あひやつたーーーー』

私はもう田に涙を浮かべていた。。

『あたしーーやつぱつ小鳥が好きーーーー』

・・・・

また振られる.....

『俺も！…ホントはすつじ好きだつた』

私は涙が止まらなかつた…

私達はすれ違つた日々を埋めるよーに…！

初めて一つになつた…嬉しかつた大好きな君と一つになれた事  
が…

『ゆづゆづ大好きだよ…ずっと俺の隣にいてなッ』

君は初めて会つたあの日のよーに頬を真つ赤に赤らめていた…

『うん…ゆづゆづずっと隣にいるから、』

『結婚しよーな』

私達は神様に誓つた…

だけど・・・。  
ねえ、、、もしもこの広い世界に神様がいるとしたら私達を離れば  
なれにさせないで...

私の隣にはもう君はない

神様は意地悪だね！

君がいればもう他に何もいらないから...ワガママ言わないかい...

『ゆづゆづー泣くな！俺はずつと隣にいるからー.』

私にはそう聞こえたんだ

ねえツ嶺あの約束ははたせなかつたけど

すつと隣で笑つてね

いつか大切な人と巡りあえたとしても嶺の事はたせなかつた忘れな  
いよ

だからその時は見守つてネ

ゆづゆ大好きだよ！

あたしも！  
すーーと愛して

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3914d/>

---

君。。。\*

2011年1月28日01時47分発行